

1 講演会 「職員の育成と指導の在り方」

静岡県幼児教育サポートチーム 成瀬 由美子 氏

静岡県幼児教育センター 幼児教育支援員 大村 千容子 氏

2 グループ研修

①-1 「保幼小の架け橋プログラム」の理解推進と幼小接続の工夫

1 協議内容

(1) 1 学期の各園の実践報告

- ・ 資質・能力を育むための保育を焦点に実践した。幼小接続には、主体的・対話的で深い学びを通して資質・能力を高め、連続性のある学びが重要であることを確認した。
- ・ 園目標に対する具体的な子供の姿を職員間で共有すると共に、入学後の姿についても小学校の担任と共有することで、幼小接続期における子供の姿をイメージすることができた。
- ・ 幼小接続の目的は何なのか職員が認識し、その上で実践を積むことが、園児や児童の育ちにつながっていくと感ずる。

2 次回の研修について

- ・ 幼小交流やアプローチカリキュラムなどの資料や報告を参考に、実践報告を行う。

②-1 つながりのある発達支援教育の推進

1 協議内容

(1) 保護者との信頼関係を深めるための働きかけについて

- ・ 日々保護者の気持ちに寄り添い、温かく受け止めていくことが大切である。
- ・ 課題だけでなく、よい面を保護者に分かりやすく伝えることを継続した。
- ・ 個別面談で見た家庭の背景を、支援の工夫につなげた。

(2) 外部機関との連携について

- ・ 保護者と築けた信頼関係が、巡回相談や療育機関との連携など、適切な支援につながった。
- ・ 職員が療育機関を見学し、個に適した環境構成を学び、園生活に活かしている。
- ・ 園児の実態と療育に対する保護者の願いに差がある。外部機関へつながった後も、保護者のケアを丁寧に行うことが大切である。

(3) その他の意見について

- ・ 支援を要する園児の対応に日々努力する職員を認め、サポートをしていく。
- ・ 園児が無理なく活動に参加できるよう、補助教材について情報交換をする。

2 次回の研修について

- ・ 各園の課題に基づいて、意見交換と協議を重ねる。

## ②－２ つながりのある発達支援教育の推進

### 1 協議内容

#### (1) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の1学期の各園の取組について

- ・ 保護者から理解が得られ、共有することができ、保育理解につなげていく道筋ができた。
- ・ 指導の優先ポイントを1～2項目に絞り端的に記入することで、具体的に保護者に伝えることができた。
- ・ 保護者の同意を得られていない園があり、運用に差があることが分かる。
- ・ 併行通園児の計画作成においては、関係機関と連携を図り、方向性を共通にしていきたい。

#### (2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画のアンケート調査の実施について

- ・ 保護者の信頼を得る運用、小学校への円滑な移行、担任の負担軽減、情報共有を視点に、個別の教育支援計画と個別の指導計画についてアンケート調査を行いたい。

### 2 次回の研修について

- ・ アンケート調査の結果を受け、各園にフィードバックする内容と方法を検討する。

## ③－１ 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

### 1 協議内容

#### (1) 大雨（6/28）の対応から

- ・ 保育室が床上浸水になる場合を想定する必要性を感じた。自然災害で起こりうる状況を園で話し合い、子供個人に関わるものは高いところに置くなど、対処方法や避難の仕方など、共通理解を図っておくことが必要である。
- ・ 自然災害はそれぞれの園の立地条件により異なるため、人命救助を第一に考えると現場の瞬時の判断が求められる。さくら連絡網のアンケート機能などを使い、園児の確実な引き渡しのために保護者との個別対応が必要な場合もある。

#### (2) 備蓄品について

- ・ 様々な自然災害を想定し、園児用備蓄品の内容や保管場所についてマニュアルを見直し、常備しておくことが大切である。

### 2 次回の研修について

- ・ 危機管理の視点から、園児や保護者に関する課題や改善策について話し合う。

### ③ - 2 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

#### 1 協議内容

##### (1) 自然災害への対応について

- ・ 危機管理マニュアルの内容については、中学校区で検討することになっているが、小学校区によって対応が異なる場合がある。近隣の幼・小・中学校と連絡を取りながら判断していく必要がある。
- ・ 6月の大雨の対応について情報交換をした。地域の特性に合わせた対応が分かり、参考になることが多かった。
- ・ 地域防災会議は、地区によって幼稚園が参加者に含まれていない。そのため園側から参加を働きかけ、地域の防災対策の状況を知ることができるとよい。

##### (2) 熱中症への対応について

- ・ 気温と湿度が高く、熱中症の危険度が高い日が多い。様々な対応を検討し取り組んでいるが、活動を中止することもある。熱中症指数計の基準値を設定すると判断理由が明確になるため、保護者や子供たちにも理解されやすい。
- ・ 子供の水分摂取の状況を把握するため、職員が水筒の残量を確認している。

#### 2 次回の研修について

- ・ 各園の安全計画、保健計画を見て感じたこと、気になった点について話し合う。

### ④ - 1 職員の育成と資質向上につながる園経営の在り方

#### 1 協議内容

##### (1) 講演会の感想を含め、1学期の実践から

- ・ 園長として組織マネジメントができているか振り返り、主任と一枚岩になれる打ち合わせの時間を確保したい。
- ・ 園内研修での「振り返り」は子供のよいところや変化を見付ける場であり、子供の姿を捉えるトレーニングとなる。
- ・ 発達支援の部屋や預かり保育実施など、業務が多岐にわたる。職員一人一人のよさや努力を認め、サポートをしていく。
- ・ 職員が少ない園では業務分担に偏りがある。職員育成のためにも事務分掌の見直しや経験値を増やす工夫が必要である。

##### (2) 課題解決に向けて

- ・ 職員を支える視点で、子供の姿に応じた行事の見直しをしたり、保育の見通しのもち方を一緒に考えたりしていく。また、急な予定を入れないなど、時間の管理の見直しをする。

#### 2 次回の研修について

- ・ 各園の実践から情報交換をし、成果と課題を協議する。

#### ④ - 2 職員の育成と資質向上につながる園経営の在り方

##### 1 協議内容

###### (1) 講演会を受けて感じたこと、1学期の各園の成果と課題について

- ・ 学期末の職員評価で、保育の情報共有と共通理解を図る時間を設けたいと申し出があった。本日の講演でも日々の打ち合わせの重要性について知ることができた。今後は短時間で打ち合わせを実施できるよう工夫したい。
- ・ 職員の経験値や立場の違いにより活動のおさえや捉え方に差がある。差を埋めるために職員の思いを聞き、丁寧な対応をしていくことが必要である。
- ・ それぞれの園に合わせた職員体制を臨機応変に構築し、子供たちが安心安全に過ごすことができ、職員がやる気や有能感をもてるような働きやすい環境づくりをしていく必要がある。

###### 2 次回の研修について

- ・ 職員育成のために園長として心掛けたことや、それに対する職員の変容について情報交換をする。